

優秀賞

みんなの冷蔵庫

門脇 咲和 (大学3年生：埼玉県)

世界では今も、9人に1人が食料で十分な栄養を摂ることができずに苦しんでいます。それに対し、世界中で作られている穀物の数は年間で約24億トンにも上ります。世界の全人口に平等に分け与えたとしても一人が十分な量を得ることができるほどの数です。ではなぜ、世界中で飢餓は深刻化しているのでしょうか。この問題は食料廃棄物の存在が大きく影響しているとみています。世界では年間約13億トンもの食品が廃棄されており、廃棄の理由の多くは食品への厳しい規制です。日本でも、店舗で販売される食品で規格外のものなどは山のように廃棄されてしまっています。また、家庭内でも期限の切れてしまったものや少しの汚れがあるものはごみとして出されてしまうのが現状です。

そこで、食品ロス問題を解決する手段として提案するのは「みんなの冷蔵庫」というシステムです。これは地域やコンビニなどの店ごとにグループを作り、必要な人に食品をシェアすることが目的の「食品共有アプリ」です。各家庭の期限切れやお店で商品にできない食品の情報をアプリに登録後、共有の冷蔵庫へ納めると誰もがその情報を把握できるようになります。食品は誰でも無料で持ち帰ることができるので食品のシェアをスムーズに行うことができるのです。食品の消費期限、購入元等の細かい情報はアプリで管理・登録ができ、冷蔵庫内はAIが画像識別技術を用いて常時管理をするので、鮮度の落ちた食品などはアプリに警告が届き速やかに排除することができます。そして循環率が高くなればポイントが貯まり、新たな利益を得ることもできます。そのため、こういった食品に抵抗のある人でも安心して楽しみながら利用することができるのです。こうした一連の流れにより、食べられないものや商品にできないものを「捨てる」という考えから他者へ「譲る」ことへ転換することができ、食品の活用方法は増えていくのではないのでしょうか。